

耳鼻咽喉科長

稲垣康治(いながき こうじ)

専門：音声・喉頭疾患、耳鼻咽喉科一般

～音声外科治療について～

当科では音声専門外来を設け、あらゆる音声障害に対して診断、治療を行っております。音声改善治療の中心となるのが音声外科治療です。まずは音声障害の原因を診断し、適応があれば個々のニーズに応じた音声外科治療を行っています。

1 どのような疾患に対して行うのか

急性炎症を除く音声障害の原因は、声帯粘膜病変の他、声帯粘膜に異常はないものの、声帯の可動性に問題がある声帯麻痺(反回神経麻痺)、加齢や生理的变化によって生じる声帯萎縮、形態的異常を認めない機能性(心因性)発声障害等、様々です。これらのほとんどが内視鏡検査で診断可能です。そして機能性発声障害を除くほとんどの症例において、音声外科治療による音声改善の可能性がります。

2 音声外科治療の方法

①ラリngoマイクロサージェリー (図1～6)

全身麻酔下に喉頭直達鏡を経口的に挿入し、声帯病変を顕微鏡で観察しながら手術を行います(図1)。ほとんどの声帯粘膜病変、一部の声帯麻痺はこの方法で治療します。全身麻酔を要しますが、低侵襲、30分程度の手術ですので、2泊3日の入院で治療可能です。外見上、傷を残さないのも特徴です。

また声帯麻痺に対して行うBIOPEX®注入法は、神奈川県内では当院でのみ行っている治療法です。

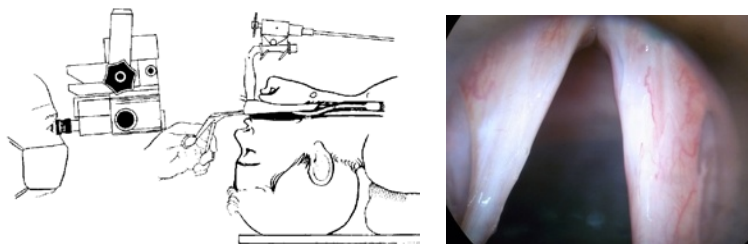


図1 ラリngoマイクロサージェリーと正常声帯



図2 声帯ポリープ

「大声を出した後」急に声がかすれ、症状が数ヶ月続いてしまう。



図5 声門がん

リスクファクターは「喫煙」「中高年男性」。徐々に増悪する嚙声が特徴。

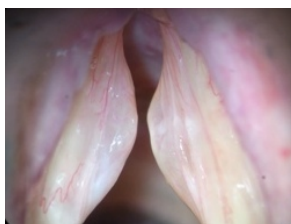


図3 ポリープ様声帯

いわゆる「タバコ声帯」。女性の喫煙者に多く、「ダミ声」が特徴。

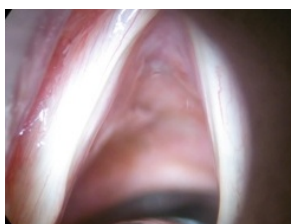


図6 声帯麻痺

左声帯麻痺症例。発声時の声門閉鎖不全を改善させるため、左声帯外側にBIOPEX®を注入し、声帯を正中方向に移動させた。  
(上段：注入前、下段：注入後)

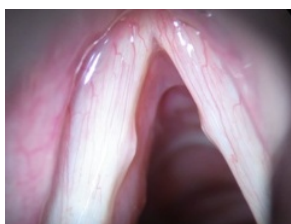
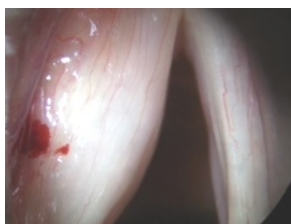


図4 声帯結節

音声酷使用する職業人（教師、保母、歌手 etc.）に多い。声帯に出来る「タコ」。



## ②甲状軟骨形成術・披裂軟骨内転術

主に声帯麻痺に対して行います。頸部外切開によるアプローチで、甲状軟骨・披裂軟骨を調節することによって、嚙声を改善させます。局所麻酔下に、音声を確認しながら行うのが特徴です。

## ③声帯内コラーゲン注入術

声帯麻痺や声帯萎縮では、発声時の声門閉鎖不全が嚙声の原因となっています。声門閉鎖不全を改善するために、声帯内にアテロコラーゲンを注入します。外来で施行可能ですので、全身状態が悪く、全身麻酔がかけられない方も適応になります。

## 外来のご案内

最新の外来担当医師一覧表は、市民病院ホームページをご覧ください。また、診療科ごとの担当医師一覧表は、市民病院ホームページの各診療科のページをご覧ください(下記参照)。

音声専門外来へのご紹介は、患者さんに紹介状をお渡し頂き、初診紹介予約枠をご利用ください。初診後、音声専門外来をご案内します。

【地域医療機関の先生方がご予約する場合】 045-341-7224 (平日8時30分~17時)

【患者さんがご自身で直接ご予約する場合】 045-341-5268 (平日9時~17時)

※当日のご予約は受付しておりません。混み合っている場合は、当院代表番号へご連絡ください。

## 横浜市立市民病院

住 所: 〒240-8555 横浜市保土ヶ谷区岡沢町56番地

電 話: 045(331)1961(代表)

当院ホームページ: <http://www.city.yokohama.lg.jp/byoin/s-byouin/>

各診療科のご案内: <http://www.city.yokohama.lg.jp/byoin/s-byouin/shinryobumon/>

最新の外来担当医師一

覧: <http://www.city.yokohama.lg.jp/byoin/s-byouin/shinryobumon/pdf-shinryobumon/doctor.pdf>